

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 10 日現在

機関番号：40124

研究種目：若手研究（B）

研究期間：平成 21 年度～平成 23 年度

課題番号：21720018

研究課題名（和文） インドにおける般若経解釈史の解明

研究課題名（英文） An Elucidation of the Doctrinal History of the Prajñāpāramitā Sūtras and their Interpretations in India

研究代表者

鈴木 健太（SUZUKI KENTA）

北海道武蔵女子短期大学・教養学科・専任講師

研究者番号：90503863

研究成果の概要（和文）：従来、般若経における思想の発展を考察する際、経典の諸異訳を比較するという方法でなされることが多かった。本研究では、『八千頌』系統、および『二万五千頌』系統の般若経の諸異訳、及び、それぞれの註釈文献を併せ見ることによって、総合的に般若経の展開を捉えようとした。その結果、これまで看過されてきた点を指摘し、般若経の解釈史の複雑な展開の一端を明らかにすることができた。

研究成果の概要（英文）：In most previous research, scholars have considered the development of thought in the Prajñāpāramitā sūtras by comparing various translations of the scriptures. In this study, I look at the doctrinal development of the Prajñāpāramitā sūtras more comprehensively, by comparing the Aṣṭasāhasrikā Prajñāpāramitā sūtras and the Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā sūtras and their commentaries. As a result, I contribute to a clarification of the complex development of interpretations of the Prajñāpāramitā sūtras.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、印度哲学・仏教学

キーワード：大乘仏教、般若経、ハリバドラ、『現観莊嚴論光明』、『八千頌般若経』

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 19世紀の西洋において、原典を批判的に解読するという近代仏教学の姿勢が仏教研究に取り入れられて以降、大乘経典はいくつかの方法を取ることによって、内容の精緻な解明が進められてきた。複数の写本を蒐集し、批判的テキスト校訂をすることによって、一つの経典の原典がより確かなかたちで定められるようになった。諸言語に翻訳された異訳経典が存在する場合、それらを相互に比

較研究することによって、経典の歴史的形成過程を窺うことができるようになった。論書における扱いを探求することで、一つの体系的化された思想のなかでの経典の位置が明らかされてきた。

代表的な大乘経典の一つである般若経に関しても、上記の方法で多数の研究がなされ、多くのすぐれた研究成果が公表されてきた。けれども、こうした諸研究には、一つの重要な視点が抜け落ちているように思われた。そ

れは、インドの伝統内部の者たちが、大乘經典の一字一句をどのように解説していったかという視点である。

従来、インド撰述の般若経註釈文献に対して研究がまったくなされてこなかったわけではない。ただし、そうした研究は断片的で散発的なものにとどまっていた。例えば、800年頃の人ハリバドラが著した、『八千頌般若経』(以下『八千頌』)の註釈書、『現観莊嚴論光明』(以下『光明』)について言えば、校訂テキストは1930年代に相次いで出版されたものの、他の文献研究の参考資料として使われることがほとんどであり、第一章全体の現代語訳さえも2006年になるまで公表されなかった(Sparham, G. [2006] *Abhisamayālaṅkāra with Vṛtti and Ālokā: First Abhisamaya*, Jain Publishing Company, Fremont, California)。また、アーリヤ・ヴィムクティセーナが著した、『二万五千頌般若経』(以下『二万五千頌』)の註釈書、『現観莊嚴註』について言えば、1967年に、第一章のテキスト校訂がなされ、公表された(Pensa, C. [1967] *L'Abhisamayālaṅkāravṛtti di Arya Vimuktisena, Primo Abhisamaya*, SOR, 37, Roma)後、長きにわたって校訂テキストの公刊がなされてこなかった。

(2) 般若経と名のつく大乘經典は『般若心経』『金剛般若経』を含め多数存在する。そうした諸々の般若経の中でも早くに誕生し、その後もインド仏教史において重要な位置を占め続けたものに『八千頌』と『二万五千頌』がある。この両経は分量こそ異なるものの、話の枠組みが極めて類似しており、歴史的にもしばしば同一經典と見なされてきた。そのため併せて分析することが可能であると考えられる。しかし、鈴木広隆氏の研究(鈴木広隆 [1988] 『般若経』の系統について—小品系と大品系『印度哲学仏教学』3、pp.104-116)など幾つかの研究を除いて、多くの場合『八千頌』と『二万五千頌』の分析は別々になされてきた。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究の主目的は、インドの伝統内部における般若経解釈方法及び解釈内容の変遷を明らかにすることである。

(2) また、同時に、經典の異訳のみを比較して思想の変遷をたどるという、従来なされてきた研究方法を問い直すことも目指している。

## 3. 研究の方法

(1) 本研究では、インドにおける般若経解釈史解明という目的を達成するために、経文自体の変遷を踏まえた上で、各註釈書の解釈

を分析し、それぞれの解釈方法と解釈内容の特徴を明らかにするという方法をとる。なお、主な調査の範囲は『八千頌』第二章と第三章、及び『二万五千頌』の対応部分、及びそれらに対する諸註釈書の解釈部分である。

(2) なお、比較対象として用いる典籍は以下の通りである。

### ① 『八千頌』

- ・『道行般若経』大正 No.224.
- ・『大明度無極経』大正 No.225.
- ・『摩訶般若波羅蜜鈔経』大正 No. 226.
- ・『小品般若波羅蜜経』大正 No. 227.
- ・『大般若波羅蜜多経 第四会』大正 No. 220.
- ・『大般若波羅蜜多経 第五会』大正 No. 220.
- ・『仏母出生三法蔵般若波羅蜜多経』大正 No. 228.

- ・ *Aṣṭasāhasrikā*, ed. R. Mitra, Calcutta, 1888.
- ・ *'Phags pa shes rab kyi pha rol tu phyin pa bryad stong pa*, P. No.734 D. No.12.

### ② 『二万五千頌』

- ・『放光般若経』大正 No. 221.
- ・『光讚経』大正 No. 222.
- ・『摩訶般若波羅蜜経』No. 223.
- ・『大般若波羅蜜多経 第二会』大正 No. 220.
- ・ *Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā II · III*, ed. T. Kimura, Tokyo, 1986.

- ・ *Shes rab kyi pha rol tu phyin pa stong phrag nyi shu lnga pa*, P. No. 731 D. No. 9.

- ・ *Shes rab kyi pha rol tu phyin pa stong phrag nyi shu lnga pa*, P. No. 5188 D. No. 3790.

### ③ 『八千頌』註釈書

- ・ハリバドラ著『現観莊嚴論光明』(*Abhisamayālaṅkāralokā Prajñāpāramitāvyaḥyā The Work of Haribhadra*, ed. U. Wogihara, Tokyo, 1932-35 (7vols), repr. Tokyo, 1973)
- ・ラトナーカラシャーンティ著『最上心髓』(*Sāratamā, a pañjikā on the Aṣṭasāhasrikā-prajñāpāramitāsūtra*, TSWS, 13, ed. P. S. Jaini, Patna, 1979)

- ・アバヤーカラグプタ著『正処月光』(*Marmakaumudī*, P. No.5202 D. No.3805)

- ・『世尊母要門随順』(*Bhagavatyaṁnāyānusāriṇī*, P. No.5209 D. No.3811)

### ④ 『二万五千頌』註釈書

- ・『大智度論』大正 No. 1509.
- ・アーリヤ・ヴィムクティセーナ著『現観莊嚴註』(*Abhisamayālaṅkāravṛtti*, P. No. 5185, D. No. 3787)
- ・バダント・ヴィムクティセーナ著『現観莊嚴頌釈』(*Abhisamayālaṅkārikāvārttika*, P. No. 5186, D. No. 3788)
- ・ラトナーカラシャーンティ著『具足淨』(*Śuddhamatī*, P. No. 5199, D. No. 3801)

(3) まず、『八千頌』と『二万五千頌』及び各註釈文献の対応箇所の整理を行い、経文の

変遷の確認を行う。続いて、『八千頌』註釈文献の解釈内容の比較検討、及び『二万五千頌』註釈文献の比較検討を行う。そして最後に、それまでの研究成果を併せて考察を加え、經典の増広と解釈の変遷との関係について考察する。

#### 4. 研究成果

(1) 『八千頌』の現行サンスクリット刊本はすべて Mitra 校訂本 (*Aṣṭasāhasrikā*, Calcutta, 1888) に依拠したものである。しかし、同書は不注意なミスと思われる箇所が少なくない。そのため、本格的な研究に入る前に、彼が校訂に用いた写本 (ロイヤルアジア協会写本 No.1) を含む複数のサンスクリット写本を用いて、『八千頌』の刊本の誤りを訂正した。

(2) 山田龍城 [1959] 『梵語佛典の諸文献』 (京都: 平楽寺書店) や、兵藤一夫 [2000] 『般若経釈現観莊嚴論の研究』 (京都: 文栄堂) などを参照しつつ、『八千頌』『二万五千頌』の経文と、それぞれの註釈書の対応関係を整理し、本研究が主な考察対象とする範囲の対照テキストを作成した。

(3) 『大智度論』について、該当箇所の現代語訳註を作成した。(ちなみに、本研究における『大智度論』の該当範囲 (天主品～阿難称誉品) は、Lamotte 氏による現代語訳がなされていない部分に当たる。) なお、現代語訳註作成に当たっては、後代のインド撰述の註釈書の内容と照らし合わせて、その解釈の異なる点、類似した点、それぞれが対象とする經典の文章の異同等の情報を脚註に記した。

(4) 研究成果(1)に関連して、サンスクリット刊本が菩薩の四階位のうち、第二階位を欠いているという問題を調査した。その結果、Mitra 氏が用いた写本の中にも第二階位に相当する語句があったことを指摘した。

さらに、『八千頌』における菩薩の四階位を検討し、四階位がまとめて登場する箇所でも四階位が主要関心事になってないこと、及び、『八千頌』中に四階位以外の菩薩の区分方法が見られることを指摘し、四階位を重要視する見方に再考を促した。

(5) 『八千頌』の註釈書であるハリバドラ著『光明』とラトナーカラシャーンティ著『最上心髓』における当該箇所の精読を行った。その結果、幾つかの類似点、相違点が明らかになった。

両書の『八千頌』解釈の類似点の一つとして、「如来十号」の解釈を挙げた。両書が、ともに『八千頌』に登場する「如来十号」の各語を「大師性 (śāstrtva)」と関連付けて解

釈する手法を用いていることを示した。

(6) 『光明』の当該箇所の調査を行い、同書が『八千頌』中の「菩薩摩訶薩」という言葉を、「独覚」と見なして解釈している用例があることを明らかにした。身体を用いた説法によって仏陀のいない仏国土で衆生利益をなすことから、独覚も利他行をなしうる存在として見なし得ると、ハリバドラが考えていたことを指摘した。

(7) 経文の変遷と解釈内容の変遷を追っていた結果、経文の変遷だけを追った場合に、期待される解釈内容と、後代の註釈者の解釈内容とにずれがある場合があることを指摘した。ほぼ同内容の経文に対しても、解釈者の立場によって解釈内容が異なる場合があり、経文の変遷を追うだけでは、その經典の思想史を解明するのに不十分であることを確認した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

① 鈴木健太 「『八千頌般若経』における菩薩の階位について」『印度哲学仏教学』25, pp.43-57, 2010 年. (査読有)

② 鈴木健太 「『現観莊嚴論光明』における「如来十号」の解釈について」『印度哲学仏教学』24, pp.120-135, 2009 年. (査読有)

[学会発表] (計 3 件)

① 鈴木健太 「ハリバドラの「菩薩」「独覚」解釈について」, 日本印度学仏教学会第 60 回学術大会, 大谷大学 (京都), 2009 年 9 月.

② 鈴木健太 「律蔵からみた仏教の生死観」, 2009 年度日本佛教学会学術大会, 立正大学 (東京), 2009 年 9 月.

③ 鈴木健太 「『八千頌般若経』における菩薩の階位について」, 北海道印度哲学仏教学会第 25 回学術大会, 北海道大学 (北海道), 2009 年 8 月.

[図書] (計 1 件)

① 日本仏教学会編 (共著) 『仏教の生死観』, 平楽寺書店, 2010 年.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

鈴木 健太 (SUZUKI KENTA)  
北海道武蔵女子短期大学・教養学科・専任  
講師  
研究者番号：90503863

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし